

令和2年3月11日

北杜市議会議長 中 嶋 新 様

北杜市議会 議会運営委員会

委員長 原 堅 志



北杜市議会議員の議員定数及び議員報酬について

このことについて、下記のとおり答申します。

記

これまで北杜市議会における議員定数・議員報酬の見直しについては、議員定数は合併時37名から始まり、平成18年の小淵沢町との合併により、42名となったが、平成19年12月定例会において、議員定数を22名とする議員発議による条例改正を可決し、平成20年12月より現状の22名となった経緯がある。

これに対し、議員報酬は、平成16年の合併以来、議長が33万円、副議長が30万円、議員が28万円と山梨県内13市の中にあって2番目の低さであるが、北杜市の最優先課題が財政健全化にあったことから、見直しは行わず現在に至っている状況にある。

そもそも議会は、住民から選ばれた議員が構成員となり、住民全体の代表者として、また、奉仕者として、地方公共団体の具体的な政策を最終的に決定するとともに、議会が決定した政策を中心に執行機関の行財政の運営や事務処理ないし事業が、全て適法・適正に、かつ、公平・効率的に、そして民主的になされているかどうかを審議し監視する役割を持っており、北杜市の課題解決の為、調査研究に基づき政策立案が求められているところである。

北杜市合併以来、課題解決の為に議員発議により、政務調査費の用途についての不正に伴う議会の信頼を失ったことによる議員報酬を減額する条例や太陽光発電設備に関する条例案2件を提出し、いずれも否決となった経緯もあるが、直近では、昨年6月の太陽光発電設備条例に対する修正案や小学校のエアコン整備の予算に対する附帯決議、小淵沢駅前広場条例に対する修正動議など、合併以来、様々な修正案や付帯決議を提出し、可決することにより市民生活の向上のため真摯に取り組んできてい



る。また、他市と比較すると多くの議員が質問に立ち、市政を質し、提案を行うことにより、議会の意思を政策に反映させた経緯もある。

今後も、議員ひとり一人の見識と資質をさらに向上していく必要がある。

このように、議員は、代表者として住民の意思を政治・行政に反映すべき役割を持っており、議員個人が掲げる政策理念に基づき、有権者である住民が自由に選挙によって議員を選ぶことにより、議会制民主主義が成立することになるものである。

しかし、現在、全国的に小規模自治体の議会においては、議会議員選挙を実施しても、無投票あるいは定員割れという状況が発生しており、住民自治の根幹としての議会の果たす役割が低下していると危惧されるところであり、議会議員選挙において、無投票や定員割れなどが発生することは、住民が自由に議員の掲げる政策を選択する機会が得られず、行政に対して自らの意思を反映させることが困難となり、住民自治の実現が図られない結果となってしまうことになる。

議会に精通している専門家は、「多くの議会は、議員定数の削減を実施しているが、安易に議員定数を削減することに伴い、議員となるための獲得票数が上がることにより、若者や女性が選挙へ立候補するハードルを更に上げる結果となっている。」との意見や「無投票や定員割れなどが発生する状況、すなわち「議員のなり手不足」の要因の一つとしては、議員報酬の低さがあり、現役世代などは、低い議員報酬のみでは、日々生活していくことが困難となり、専業として専門的に議員活動を行うことはできない環境を作り上げている。」との意見を述べている。

北杜市議会の議員の状況は、女性議員は、現在1名であり、最も多かった4名からすると少ない状況にある。また、60歳以下の議員は、5人いるものの、今後も幅広い世代から議員を選出できるとの保障はない。

前回の選挙においては、定員22人に対して1人オーバーの23人が立候補し、無投票とならなかったが、平成20年の選挙では、立候補者が30人、平成24年の選挙では、24人だったことからすると、今後、無投票あるいは定員割れも想定できる状況にある。

全国的に市議会議員選挙が無投票となっている状況を踏まえて、総務省自治行政局は、地方議員の成り手不足解消に向けた研究会を設置し、自由に議論していくこととなったこともあり、北杜市議会においても、今後、幅広い世代から優秀な人材を確保するために、適正な議員定数・議員報酬について検証を行うことを目的として、昨年6月より議会運営委員会において議論を重ねてきたところである。

まず、議員定数については、議員は広く市民の声を聞き、議案審議などに多くの市民の思いを届けることが重要であることや、特に、北杜市は面積が広く、議員数を減少させることは、市民との距離を開けることになりかねないとの意見、議会では議案は委員会に付託され、審査されることが原則であることから、現状の3常任委員会は残すべきであり、専門家や議員定数を検討した市議会の議論において、一常任委員会あたりの委員数は、7人から8人が議論を行うには適当な人数であることを参考とすべきとの意見、また、パブリックコメント等の市民の意見からも現状維持とすべきと

の意見や減らすべきとの意見も出されたことから、民意を酌んで見直しを行うべきではないかとの意見も出された。各会派で協議されたが、議員定数についての意見が分かれた会派もあった。また、議会運営委員会内においても、議員定数のあり方について様々な意見が出される状況にあり、今のところ議会運営委員会としては検討中である。

次に、議員報酬については、議員定数・議員報酬についてパブリックコメントをはじめとする市民からの意見は、議員としての職務を全うすることなどの条件があるものの、生活を維持しながら議員活動に専念してもらうためには、増額しても良いとの意見が相対的にあった。また、現在の議員の待遇として、医療保険の加入は無論のこと、議員年金の廃止に伴い、年金については個人の負担とされ、また、本会議及び委員会等に出席するための交通費として費用弁償を支給することが出来るとされているが、現在は支給されていない。これらすべての負担は議員報酬で賄われる状況にあり、特に、子育て世代など現役世代にとっては、現在の議員報酬のみでは、個人の生活を維持しながら議員活動を行うことは極めて厳しい状況にあるといえる。

これらのことを考慮し、議会議員の報酬については、幅広い層の方が北杜市議会議員として活躍できる場を提供できるよう、議員報酬について適正な額を北杜市特別職報酬等審議会において議論していただくよう市長に対して議長より要請していただきたい。

なお、検討段階において参考となるよう、パブリックコメントの結果を添付するとともに、議会運営委員会において議論を行うための参考として、市長の標準的な勤務日数と、議長の議会活動のみを算出し、比較した資料などを添付する。

(資料)

議長の議会活動日数と報酬について

		H27	H28	H29	H30	4ヶ年平均
本会議	第1回	21 日	22 日	18 日	18 日	20 日
	第2回	17 日	16 日	17 日	17 日	17 日
	第3回	29 日	22 日	24 日	24 日	25 日
	第4回	21 日	20 日	18 日	17 日	19 日
	計	88 日	80 日	77 日	76 日	80 日
臨時会		0 日	2 日	0 日	1 日	1 日
議会運営委員会		9 日	12 日	10 日	13 日	11 日
全員協議会		8 日	8 日	11 日	14 日	10 日
常任委員会	総務	2 日	0 日	2 日	2 日	2 日
	文教	2 日	1 日	2 日	2 日	2 日
	経済	3 日	0 日	2 日	3 日	2 日
	平均	2 日	0 日	2 日	2 日	2 日
広報編集委員会		15 日	12 日	14 日	15 日	14 日
特別委員会		0 日	0 日	0 日	7 日	2 日
議員研修	県	2 日	2 日	2 日	2 日	2 日
	市	1 日	1 日	2 日	1 日	1 日
合計		125 日	117 日	118 日	131 日	123 日(ア)

※委員会ほかの活動日数は、閉会中の日数

◎市長の休日	52 週 × 2 日 = 104 日
	年末年始 6 日
	祝 日 14 日
	合 計 124 日

市長の勤務日数 365 日 - 124 日 = 241 日(A)
議長の平均勤務日数 (ア) 123 日(B)

※市長の土日の公務及び、議長としての公務は除く

市長の勤務日数に対する議長の議会活動日数の割合

$$(B) \div (A) = 51.0\%$$

上記を踏まえて市長の報酬に対する議長の報酬

$$80\text{万円} \times 51.0\% = 408,000 \text{ 円}$$

山梨県内市議会議員報酬一覧表

令和2年3月現在

番号	市名	定数 (人)	人口		議員報酬月額(円)					現在の報酬 に改定した 年月日	改定理由
			数(人)	基準日	議長	副議長	議員	委員長の職 (常任・議会運営)			
1	甲府市	32	187,596	3/1	660,000	610,000	590,000	-		H9.4.1	議員活動の増大、複雑・専門化、職責の重要性、他市状況
2	富士吉田市	20	48,462	3/1	400,000	370,000	360,000	-		H5.4.1	人事委員勧告に伴い市長・教育長・教育委員と同時に改定
3	都留市	16	30,135	3/1	380,000	355,000	345,000	-		H5.4.1	人事委員勧告に伴い市長・教育長・教育委員と同時に改定
4	山梨市	18	34,489	3/1	370,000	345,000	335,000	-		H17.3.22	合併以来改定なし
5	大月市	14	23,645	3/1	375,000	355,000	345,000	-		H6.1.1	特別職(市長・教育長)と同時に改定
6	韭崎市	16	29,185	3/1	369,000	345,000	336,000	-		H18.4	人事委員勧告に伴い市長・職員と同時に減額
7	南アルプス市	22	71,553	3/1	400,000	360,000	350,000	355,000		H17.1.1	近隣類似自治体状況
8	北杜市	22	46,534	3/1	330,000	300,000	280,000	-		H16.11.1	合併以来改定なし
9	甲斐市	19	75,607	3/1	400,000	360,000	350,000	-		H18.10	近隣類似自治体状況 ※【定数は令和4年4月から】
10	笛吹市	21	69,070	3/1	400,000	370,000	360,000	365,000		H16.10.12	合併以来改定なし
11	上野原市	16	22,901	3/1	310,000	280,000	260,000	265,000		H17.2.13	合併以来改定なし
12	甲州市	18	31,104	3/1	380,000	345,000	335,000	-		H17.11.1	合併以来改定なし
13	中央市	18	31,029	3/1	330,000	300,000	290,000	-		H18.2.20	合併以来改定なし

議員定数及びに議員報酬に対するパブリックコメントの実施について

近年、地方議会議員を取り巻く環境は変化し、今年の統一地方選挙において、無投票や定員割れの結果となった自治体が発生し、議員の確保に苦慮している状況にあり、議員のなり手不足が憂慮されているところであります。

専門家は、有能な人材の確保や若者世代、女性議員の不足への対応が議会に求められるとしています。

特に若者世代については、子育て中であるなど、生活の基盤を整えながら議員活動を行うことが困難な状況にあり、議員活動をしながら生計を維持するための議員報酬が必要となっています。

今後、議員定数及びに議員報酬の検討を進めるにあたり、まずは、市民の皆様から議員定数及び議員報酬について広くご意見を求め、議員は何人必要であるのか、また、有能な議員を確保するために必要な議員報酬がどれくらいの額であるのかといった議論をしっかりと深める必要があることから、パブリックコメントを実施します。

合併前との比較

	議員定数	議員報酬	議員定数の変遷
合併前 8 町村	120 人	2188 万 5 千円	合併時 37 人からスタートし、小淵沢町の合併により 42 人となった。平成 20 年より現在の 22 人となる。
現在の市議会	22 人	623 万円	

※議員数は、合併前 8 町村の合計人数 ※議員報酬は、月額合計

主な山梨県内市議会との比較（人口は、平成 31 年 3 月末現在）

	人口	議員定数	議員報酬	政務活動費	社会保障等
甲府市	188,038 人	32 人	59 万円	4 万円	議員年金が廃止されたことにより、一部の議員を除き国民年金へ加入、医療保険は国民健康保険へ加入。
韮崎市	29,569 人	16 人	32 万 6 千円	1 万円	
甲斐市	75,593 人	22 人	35 万円	1 万円	
南アルプス市	71,661 人	22 人	35 万円	1 万 5 千円	
北杜市	46,912 人	22 人	28 万円	1 万円	

※議員の収入は、30代と同じくらい。 ※市議会議員経験のみで議員年金受給者はなし。

パブリックコメント実施方法（北杜市パブリックコメント実施要綱に準じて行います。）

○実施時期：令和元年 11 月 18 日（月）から 12 月 20 日（金）

○市民に求める意見：「北杜市議会における議員定数及び議員報酬の今後の在り方について」

○募集の方法：ファックス・メール・手紙等書面

○宛先：北杜市議会事務局 〒408-0112 北杜市須玉町大豆生田 6 3 1 番地 1

FAX 0551-42-1128 メールアドレス gikai@city.hokuto.yamanashi.jp

議員定数・議員報酬 パブリックコメント 一覧表
 「北杜市議会における議員定数及び議員報酬の今後の在り方について」 期間:2019.11.18~12.20

番号	提出方法	議員定数	議員報酬
1	メール	現状で、削減には反対。議員は市民の意見を反映し、代弁すべき、少数意見を大事にするためある程度の人数は必要。	28万は少ない。一家を養えない。他の職業を持っている方もいるが、その収入を前提にすることはよくない。議員活動に専念して家計が成り立つ額、少なくとも30万円台は必要。
	メール	活動しない議員は問題外。現状人数で市民の課題に対応するため不足なのか？現議員の意見を取りまともて再度市民にはかかるべき。定数増となると活動しない議員が増える危険。私の相談している議員はフットワークが軽く、勉強している方で大変と感じている。	落選すれば無職となるため将来へのリスクが大きい。ため議員を目指すことをためらう仕事だと思ふ。その中でよい人材を確保するため、ある程度の報酬は必要。今後人口減から税収減が予想され、他市との比較より税収の中で妥当な報酬と定数を検討する必要がある。議員自らが検討するのは、当事者のため甘くなる、第三者委員会が検討することが妥当。
2	メール	他三市が22人であればそれで良い。但し地域代表の陳情なら行政区域と重複するのではない。市民のいろんな層の代表としてなら意味がある。例えば子育てママ、パパ、20代・30代青年男女、40代・50代・60代男女、身体障害者男女、精神障害者男女、北杜市地元民男女、市外移住者男女、サラリーマン男女、公務員男女、学校の先生男女、専業主婦主夫、年金生活男女、うつ病者男女、農業者男女、警察官男女、消防士男女、予備役自衛官男女、芸術家男女、隠居者男女、書道家男女、タレント男女、引きこもり青年男女、引きこもり中年男女、引きこもり老人男女、国家公務員の父兄男女、県庁職員の父兄男女、北杜市職員の父兄男女、労働組合員男女、各政党男女、イラストレーター一男一女、発達障害者男女、アスペルガー一男一女など。仕事して人もなりやすいよう土日に議会を開催してほしい。土日の地域行事を廃止して、市民の無償行事の廃止、地域行事を開催する場合は時給850円×拘束時間を行政区域から支払うことを義務化、市民の無償労働を廃止させる。利害相反のため行政区域との業務やめる。当選した場合は区長や会社役員はやめる。幅広くするため供託金は下げる。地域代表ではないため口利き禁止、あった場合は市から報告させる。透明化必要。行政区域からの陳情は市の優先順位を決め口利きでの変更は禁止。地域行事への出席は市が主催するものだけで、消防や運動会や祭りの参加は事前選挙活動とみなし禁止して議員の負担を減らす。市も議員も市民のための公僕であるが一部のクレマーのためにあるのではない、あくまで市民へは公平に接する。	他市と比較しない。時給850円×8時間×150日(議会開催日数)=8万/月=102万円(議会開催日や市役所での打合せや式典に参加した日)北杜市の時給を1,000円の場合は120万円(10万/月) あくまで地域の最低賃金をベースに算出。個人事業主と同様に賞与なし。70歳以上で年金がある場合はその分減額する(実質的に70歳定年) 政務活動費は5万、行政の邪魔をさせず市内だけの活動なら十分。視察は事前に議会承認させ報告も議会にさせ、無駄な視察は減らす。秘書1名の雇用費5万。報酬月額給与8万+政務活動費5万(領収書必要)+秘書雇用費5万=28万。

議員定数・議員報酬 パブリックコメント 一覧表
 「北杜市議会における議員定数及び議員報酬の今後の在り方について」 期間:2019.11.18~12.20

番号	提出方法	議員定数	議員報酬
3	FAX	民主主義を考えると、一定の年齢に達した市民全員が話し合っ て決める直接民主主義が一番と思うが現実的でない。市民の多様な意見を反映する議会にするには、人口に応じた議員数で市民の声を議会を通し、市政に反映することが重要。従前にあった人口に応じた法定数26人がよい。	第一に市民の暮らしを支える市民所得とのバランスを考慮する必要がある。北杜市民の平均所得と比較して検討すべき。市民の給料・農業・年金所得と比較して、現行の28万円は決して少なくない。年4回の定例会と臨時会、常任委員会などの調査研究や研修活動全部を合わせても、年間活動日数・時間は、労働者の年間労働日数・時間と比較して非常に少ない。時間当たりの活動時間・労働単価は大変高いと思う。現行の28万円よりよい。定数を増やした分は、政務調査費を削減または廃止して報酬の充実に一部を活用と考える。
4	メール	削減に反対。人口は甲斐市や南アールプス市より少ないが面積は広大で、扱う問題も数多く、本来であれば増やすことも考慮すべきだが、広範囲な市民の理解を得るのも大変なため現状維持がよい。	甲斐市、南アールプス市と同様に月35万円まで引き上げるべき。現状が山梨県内で最も低い報酬で、若い議員が議員を続けられない額と思う。家族を養いながら議員活動をするためには、最低でも月35万円は必要。
5	メール	住民の意思を行政に反映させる役割を負っているが、その点でどの程度の役割を担っているかは意味がない。各地域の人口・特性等に 応じた議員の適正な数の検討が必要。山梨県の他の自治体と単純に比較することは、地域の広さ、産業の分布、人口の構成など地域の特性を考慮することのないもので、参考とすることに意味がない。まずは議会の考え方を示すべき。	甲斐市、南アールプス市と同様に月35万円まで引き上げるべき。現状が山梨県内で最も低い報酬で、若い議員が議員を続けられない額と思う。家族を養いながら議員活動をするためには、最低でも月35万円は必要。
6	メール	35万×17人=595万。(28万×22人=616万)年齢も30代・40代・50代・60代以上と年齢の幅があるといい。地域は広いが、それぞれの地域からそれぞれ年齢の議員がいると幅広い情報が入手できる。若い人たちの参加がとて大切で、新しい発想が生まれてくると思う。年代ごとに獲得票の多い順に当選を決めると幅広い年齢層の議員を選べる。成り手のいない今の議会選挙では新しい方法を考えることが必要。働いている人たちのために、夜議会を行うのがいい。夜だと傍聴もでき市民も参加しやすい。	35万くらいにして、人数を減らすのもいいのでは

議員定数・議員報酬 パブリックコメント 一覧表
 「北杜市議会における議員定数及び議員報酬の今後の在り方について」 期間：2019.11.18～12.20

番号	提出方法	議員定数	議員報酬
7	手紙	各地域2～3名程度、全体で22～23名は妥当だと思ふ。	あまりにも低すぎ。近隣の市町と比較しても低すぎ。北杜市の進路を決める重要な市議会議員が自信と責任と自尊をもって活躍してもらうためには、年間600万円は必要ではないか。政策審議のプロとして働いてもらうためには、他の予算を調整しても予算確保すべき。
8	メール	山梨県だけでなく全国と比較しても多いと感じる。単に人口当たりの人数の比較も然りながら、実際にどのような活動をされてきたか5年間見てきたが、人数の割には活動実態が見えないのが実感。多くの議員は、選挙前だけ目立つ活動をしているように見えた。議員定数16名を提案する。	議員報酬が非常に低いため、純粋な政治家として専従することが不可能なことがある。従って多くの議員に見られるようにそれまでの職業を退職された第二の人生として歩まれている方や、自営業の方が占めることになっている。専従ではないため片手間に年4回の議会をこなすだけの方も見受けられる。議員報酬月額40万円・政務活動費月額2万5千円を提案する。定数削減と報酬増加だけで議員の質向上とは思えない、市民の目に常にさらされていることで、緊張感を持った議員活動を行うことを期待する。その結果、4年間の実績を正しく評価できると考える。
9	メール		パブリックコメント実施の掲載に違和感を感じる。議会におけるパブリックコメントのあり方が決められていないからである。議会として住民からパブリックコメントを求めるのであれば、案の公開、意見公募の手続き、意見の公表や意見の案への反映の仕方などを定めてから実施すべき。地方議員のなり手不足が問題視され、議員報酬だけでは生活できないなど、どの指摘があるのかは承知しているが、そのような問題が深刻になっていくことを住民に知らせず、現在の議員定数・報酬がどのような根拠で決められたのかを明らかにせず、また、寄せられた意見をどう扱うかも不明のままである。このような状況では、妥当性を判断する材料がほとんどなく具体的な意見は出せない。議員報酬は住民要求の把握や審議に反映させる仕組みに即して考え、活動を支障なく保障する視点から考える必要がある。報酬を上げたいから定数を減らす、他市と比べるとはるかに低すぎるなど、議会基本条例の制定を急ぎ、それに基づき定数や報酬の案を住民に問うべき。議会・議員の果たすべき役割を明確にした上で論議してもらいたい。
10	メール		パブリックコメントに至った経緯には大賛成である。総人口当たりの市議1名の数は、韭崎の1848人を除けば、甲府5876人、甲斐3436人、南アルプス3257人であり、北杜市は2132人である。人口構成にもよるが、全人口から見ると近い数字とするならば3300人とし議員数は14～15人へ削減すべき。現在会派が6～7に分かれており市政を混乱させる要因であり、全派ないし派閥の形成は最小にすべきであり、この認識が市議には不可欠。市議の削減も重要であるが、一方では市議員の削減と効率化が不可欠であることを市当局や市議は認識すべき。総議員数は506人、人口46912人、人口比率1%強。職員比率がこれほど多い市町村は少ない。職員の削減に關してのパブリックコメントを実施してもらいたい。正職員に加え臨時職員も採用している、そこまで業務量が多いとは想定しにくい。産業構造の見直しとそれらの活性化策こそ、市議や市職員に課せられた重い課題である。

議員定数・議員報酬 パブリックコメント 一覧表
 「北杜市議会における議員定数及び議員報酬の今後の在り方について」 期間:2019.11.18~12.20

番号	提出方法	議員定数	議員報酬
11	メール	市が市民に何をしてくれるのではなく、市民が市のために何ができるのか問える。市民の権利、義務の再考の下で、議員が市民の顔色を見、市民が議員に群がるのは止めよう。(議員特権廃止) 本来票にもお金にもならない事をするのが議員、よって、議員定数は半分に	定数同様、報酬も半分にとと思う。もともと議員報酬の他に、先生方には色々な名目での収入が多く、それもなくせればと思う。
12	手紙	パブリックは一般的にも、これまでの北杜市の様々なパブリックに比べて、今回は原案ではなく、ただ2点に関する意見募集となっている。住民の意見を尊重することにはならず、市議会の意図がどこにあるか疑う。地方自治体の議員の任務は住民の生活を擁護し、その権利を最大限保障するための仕事と同時に国の一方的な施策の中で住民に不利益なものに対しては住民の立場で対応することと言える。自治体の執行機関のチェック、監視と議会独自の施策・立案、条例化なども主な仕事である。北杜市の基本問題(人口減・高齢化・福祉のあり方、働く場などの課題)に関し、住民と市議会・議員との意見交流の場がほとんどない。市議会に対しては、何回も議長(議長の要望や意見を出し、参考人として請願者の意見を直接聞くよう訴えたが前進がなく、回答すらない。議会への要望を直接聞く機会がない、女性議会・青年議会・学生議会また職能別の議会などは、議会として機能するための補助的なものもある。選挙の時だけでなく、地域ごとの懇談会や地域委員との懇談会も必要。居住地域だけでなく、旧町村単位で、議員全員が参加すべき。地域単位での住民要求を聞き、市政を考える懇談会などの開催。全員協議会での市民の傍聴を認めることが第一と思う。主人公は市民であるため市民が市議会の場で聞くべき。CATVの放映など前進は評価する。住民との距離を短縮するには議会が話し合っていることを知らせること。議会だよりは報告としてのもので市民は議会を短縮するに議会が話し合っているか全派の提案が行なわれ、市民に明らかにならなければならないべき。議員定数の削減は必要ない、削減は住民との距離を大きくするだけ、市議会・議員に望むことを考える。報酬28万円は決して低いとはいえない、県内他の報酬から見れば低い問題は市議会のあり方、議員の任務と深く関わった問題であるため、そこを見失うことのないよう期待する。	定数及び報酬問題は市議会のあり方、議員の任務と深く関わった問題であるため、そこを見失うことのないよう期待する。
13	メール	奇妙なパブリックコメント募集と感ずる。何にコメントするのかわからない。議会が議論して理由を示して、こう変えた方がいいかというコメントを求めたのが筋。今回示されたデータは、合併前後での比較と県内4つの市との比較のみであり意味がない。そもそも議員の役割は何か、住民の要望を聞き、実態を調べ、場合によっては行政の担当部署に繋げたり、住民に代わって(住民を代表して)議会に取り上げて政策に反映させたり、議会として条例を作ったりすることではないか。北杜市が広大であることから、現在の22人の定数が多いとは言えない。住民としては議員の仕事を中心としてほしいです。それが果たせる報酬を支払うべき。額については一律である必要があるか。議員としての仕事に対する報酬と考えると教育費がかかる年代の方に差があってもよい。基本の額を決め、プラス扶養費、住宅手当などの規定を定め、若い世代の生活ができるよう改善できないかと思う。議員定数と報酬についての議論を透明化、見える化して多くの住民が納得できるように議論を進めていただくとお願いする。	奇妙なパブリックコメント募集と感ずる。何にコメントするのかわからない。議会が議論して理由を示して、こう変えた方がいいかというコメントを求めたのが筋。今回示されたデータは、合併前後での比較と県内4つの市との比較のみであり意味がない。そもそも議員の役割は何か、住民の要望を聞き、実態を調べ、場合によっては行政の担当部署に繋げたり、住民に代わって(住民を代表して)議会に取り上げて政策に反映させたり、議会として条例を作ったりすることではないか。北杜市が広大であることから、現在の22人の定数が多いとは言えない。住民としては議員の仕事を中心としてほしいです。それが果たせる報酬を支払うべき。額については一律である必要があるか。議員としての仕事に対する報酬と考えると教育費がかかる年代の方に差があってもよい。基本の額を決め、プラス扶養費、住宅手当などの規定を定め、若い世代の生活ができるよう改善できないかと思う。議員定数と報酬についての議論を透明化、見える化して多くの住民が納得できるように議論を進めていただくとお願いする。
14	FAX	経費削減などを理由に身を切る改革を主張する人たちがいますが、身を切ることで切られるのは、議員の身ではなく北杜市民の多様な民意ではないでしょうか。民主主義の基本は市民の民意を反映した議会にすることにある。8町村が合併した広大な面積をもつ北杜市ではなおのことと思う。したがって、議員定数は現行の22人から増やすことはあっても、減らすことは大反対である。	今の北杜市の報酬28万ではあまりにも安すぎる。子育て中の人も市議として生活できる、市民のために誇りを持って尽くすことのできる報酬に改定してほしいと考える。

議員定数・議員報酬 パブリックコメント 一覧表
 「北杜市議会における議員定数及び議員報酬の今後の在り方について」 期間：2019.11.18～12.20

番号	提出方法	議員定数	議員報酬
15	手紙	<p>昨今、定数削減とか身を切る改革が声高に叫ばれているが、北杜市の場合他市と比較しても格段に市域が広く、各地域の要望・意見を市政に活かすためには、現在の議員定数は維持しなければならぬ。パブリックコメントの範囲外ではあるが、議会の近代化という意味で、定数の中に一定数の女性枠を設定するとか、全員協議会を傍聴可能にするなど、より活性化され開かれた議会にする方策も検討していただきたい。</p>	<p>県内の他市との比較でも明らかのように、現在の議員報酬では低すぎると思う。全国の市の平均額が42万ということを考えれば、せめて県内近隣市と同等額への引き上げが求められる。また、議員活動の活性化という意味でも、政務活動費も合わせて引き上げが必要ではないか。現状の政務活動費では活動のための交通費に消えてしまい、十分な調査・研究などおぼつかない金額ではないか。</p>
16	メール	<p>市議会・市議会議員の役目は多様な市民の声を吸い上げ集約して市政に反映させることにある。そうした役目を果たすために選ばれた議員一人一人ができるだけ広ききめ細やかに多様な市民の声を聞くことと思う。東京都に匹敵すると言われる広い市内の隅々の様子を窺って課題や問題点を掴み市政に反映させる議員活動が求められる。多様な市民の要求、声を吸い上げるにはやはりある程度の議員数は必要だと思う。(北杜市5万人弱の市民を議員数で割った議員一人あたりの数は、合併前の町議会では町議一人あたり400人だが、現在の22人の議会では市議一人あたり2,000人以上と大幅に増えている。いかに合併前が決め細やかに、また、濃く住民の声を反映され得る状況下にあったのかと改めて思う。)新しく市になってからも定数を減らしている。さらに減らす必要はない。他の市に比べて北杜市が広いということ、人口密度が小さいという点も議員活動の大変さの観点から考慮する必要があると思う。</p>	<p>地方の過疎化が進み議員のなり手がなく議会が成り立たないというような地方もあると聞く。しかし、北杜市では移住者も多く、若い人も農業に従事するなど頑張っている。そういう中北杜市を良くしたいと積極的に議員に立候補する人も現れている。市の発展・活性化に繋がると思い、頼もしく感じ期待する。そうした若者や家庭を持った人でも安心して議員活動に専念できるようにすることも大切、きちんと生活ができて家族を養っていける給料を保証してあげることが最低必要だと思う。その点、他市に比べ北杜市は低すぎると思う。議員がしっかりと住民の代表として仕事を誠実にやってくれば、決して身を削れというような声は起さないとと思う。</p>